



平成30年 町長施政方針

本物の『幸せ』を実感する希望の町を目指して

3月5日、平成30年第1回定例会の開会にあたり、勝田町長が施政方針演説を行いました。(内容を一部抜粋して掲載しています)

― 予算の概要

平成30年度の当初予算では、「奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を実行するため、また、生活インフラの整備、産業振興、教育の充実など、町民生活の向上に資する事業に配慮した予算を計上しました。
予算の総額は135億8000万円、平成29年度当初予算に比較して6%、8億6000万円の減額となりました。

― 社会基盤・生活基盤整備

生活道路の整備については、引き続き13路線の改良整備を図ります。また、新規に三沢山根線小寄八幡工区と横田庁舎裏の東河岸線の2路線に着手する計画です。このほか、点検・修繕事業による道路の長寿命化を進めます。

現在、実施している三成公園ホッケー場の改修事業は、今年8月に本町で開催される全日本中学生ホッケー選手権大会に向けて、人工芝の全面張替えや、自動散水施設整備などを行います。
県事業については、整備中の国道・県道や、河川・砂防などの各事業の早期完成、新規事業の導入の要望活動を継続します。

また、農地・農業水利施設の整備による経営規模の拡大を進めるため、農業基盤整備促進事業を引き続き実施します。

次に、仁多可燃物処理センターについてです。施設の老朽化が課題となり、今後10年以内の雲南圏域での施設整備について、雲南市・飯南町と協議・検討を重ねていきます。

水道事業では、施設の老朽化と水量確保のため、横田浄水場の改良事業に着手します。順次、施設の更新・整備を進める予定です。

下水道事業では、平成30年度に合併処理浄化槽の設置を25基計画しているほか、施設の長寿命化を図るため、農業集落排水施設の機能保全対策調査を実施します。また、公共下水道と農業集落排水施設との統合計画について検討します。

― 小さな拠点づくり

地域住民が主体的に行政や各種団体と連携して、住民自らが暮らし続けたい地域を作っていくことが「小さな拠点づくり」です。

町民の皆様の「小さな拠点づくり」に対する積極的な取り組みを支援するため、「地域づくり推進課」を設置します。地域交通対策

定住対策と一体となった地域づくりに努めます。

― 地域活性化

平成28年度から開始した「神話とたたら製鉄の郷 奥出雲の仕事づくり」事業は、引き続き国の交付金を活用し、和鉄を活用した新商品の開発に取り組み、たたらや玉鋼のブランド価値を高めていく活動を展開します。

今年4月からは、刀匠1名を地域おこし協力隊に委嘱し、日本刀づくりを通して、玉鋼の町としてのブランド化に努めます。

― 定住対策

昨年7月に「まち・ひと・しごとセンター（奥サポ）」を開所し、「住まい」や「仕事」などのUITAインに関する情報発信や、相談支援に取り組み、平成30年1月末時点で約2500名の方が利用されました。今後も定住人口の増加につなげられるよう、施策、事業の工夫を図ります。

― 産業振興

農業振興については、国の米政策見直しに伴い、「米の生産数量

目標配分」が廃止されるなか、県の目安として、昨年12月に平成30年度産米の県内市町村別生産数量が示され、平成29年度の実績より約46%多い、約1452kgの提示を受けました。これを受け、本年1月に各集落に対して町より水稲作付面積の拡大をお願いしました。

畜産・酪農の振興では、県やJAなどの関係機関と連携し、畜産農家や酪農家を取り込んだ協議会を設立し、和牛・乳牛の増頭対策を図ります。

特産振興においては、平成29年度に「企業版ふるさと応援寄附金」を活用し、エゴマ収穫用コンバインを導入しました。引き続き寄附金を活用しながら、エゴマ振興を図る考えです。

今後、農業を取り巻く情勢は、一層厳しさを増すものと予測されますが、「人・農地プラン」に基づく、認定農業者の育成や農事組合法人の設立など、担い手の育成や、中山間地域等直接支払交付金などを活用し、農業振興を推進します。

林業の振興については、平成30年度税制改正大綱の中で、「森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）」の創設が決定しました。

初代奥出雲町長の岩田一郎氏が

発起人となられ、その創設を国に働きかけてきたものであり、市町村が行う森林整備や林業の担い手確保の実現に向け、弾みがつくと期待します。

― 環境行政

小水力発電事業では、平成29年10月に三沢発電所が竣工し、発電を開始しました。4月に竣工した阿井発電所については、許認可手続きの関係で事業開始が遅れましたが、事業実施主体を町に変更することで、平成30年4月1日から事業を開始します。町内3カ所の小水力発電所が稼働することとなり、環境に優しい再生可能エネルギーの推進を図ります。

― 観光振興

奥出雲町観光協会は平成30年度新たに、一般社団法人としてスタートする予定です。

会員制を取り入れ自主財源を活用した事業展開や、観光で利益を上げる仕組みも考えながら旅行商品の造成やイベント企画などの事業運営を行っていく考えです。

また、本年は、JRと鳥根県・鳥取県の自治体、観光事業者などが連携し、「山陰ディスプレイ

シヨんキャンペーン」が展開されます。JR各社が全国規模で山陰の観光地をPRし、自治体とともに様々なイベントを企画し、観光客増加に向けた誘客が図られます。本町の魅力ある「自然」「歴史」「文化」「食」を大いに情報発信し、より一層の誘客促進を行います。

― 公共交通

平成30年度は、新たに奥出雲交通へ大型路線バス1台、貸切観光バス1台を配備します。また、安来市比田地区との接続が行えるよう西比田線のダイヤ改正を行います。これにより、比田地区からのアクセスが便利となり、経済交流などに期待が持てると思います。

JR木次線は、雲南市・奥出雲町が中心となり、木次線活用推進協議会（仮称）を立ち上げ、更なる利用促進を図ります。

― 商工業振興

三沢地区の起業創業支援施設の旧館部分を改修し、起業家などのスタートアップを支援するため、レンタルオフィスや、気軽に仕事ができるコワーキングスペースを開設します。



起業・創業支援施設「古民家オフィス みらいと奥出雲」

また、引き続き商工会による経営改善普及事業を実施するほか、小規模事業者の事業継続を支援するため「小規模事業者事業継続支援補助金」などを実施し、地域商工業の振興を図ります。

― 結婚対策・少子化対策・子育て支援

結婚・子育てコンシェルジュ事業では、平成29年度から定期的な相談日を設け、相談への対応と情報提供を行ってきました。

相談内容としては、結婚に関する相談が多く寄せられており、結婚相談への関わり方が今後の課題